重要課題（マテリアリティ）とその特定

当社グループでは、自社の活動に関連する社会課題を洗い出し、その影響の大きさを社会の変化を踏まえて再評価するとともに、具体的に取り組むべき課題に優先順位をつけて取り組むこととしました。マテリアリティの特定にあたっては、国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）を基本に、複数の代表的なガイドラインを参考に検討を加えました。

マテリアリティの特定プロセス

STEP1　社会課題の把握

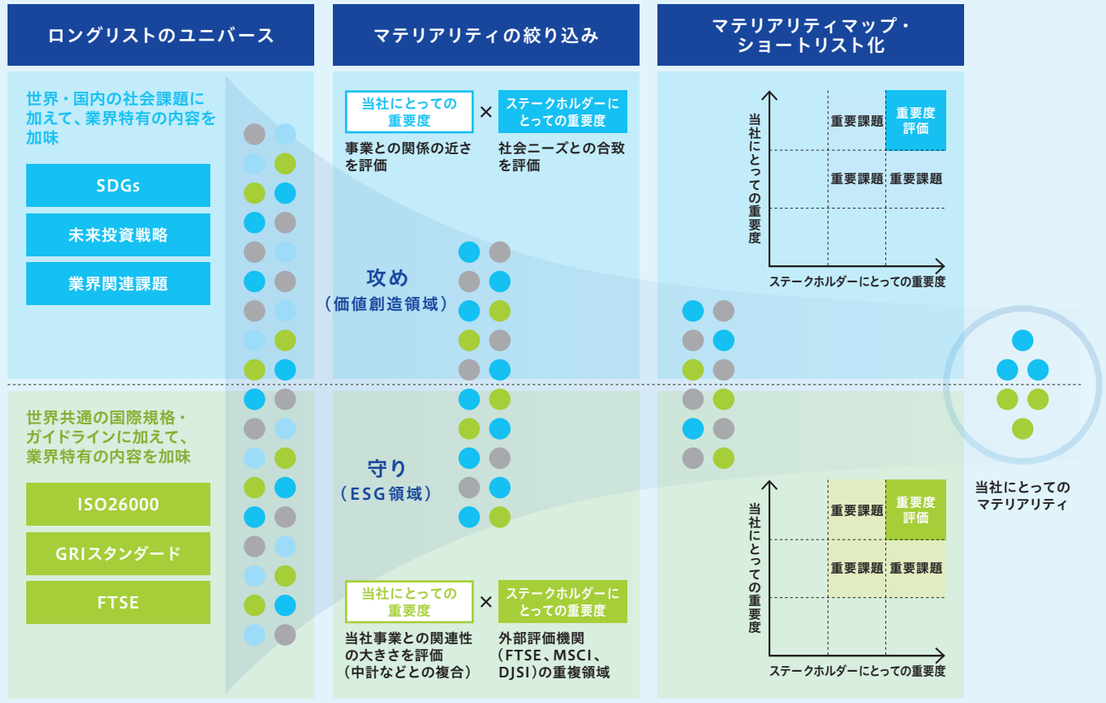
- 世界共通の国際規格・フレームワーク（SDGs、ISO26000、GRIスタンダード）やESG評価機関の評価項目などを参考に、社会課題の洗い出し
- 自社の事業との関連性、業界特有の内容を加味

STEP2　課題の抽出と重要度の評価

- 検討・抽出した経営課題をステークホルダーと自社にとっての重要度の観点から2軸で整理・絞り込み
- 「事業を通じた社会価値創造」の視点と「社会要請への対応」の視点でそれぞれ評価

STEP3　マテリアリティの特定

- 有識者との対話・経営層による審議の上、取締役会による承認
- 優先的に取り組むべきものとして、6つのマテリアリティを特定



重要課題（マテリアリティ）と主な取り組み

1 表面改質技術による豊かな社会の創出

- 環境負荷低減ニーズに対応した製品の開発・販売
- 次世代自動車向けの製品の開発・販売
- 既存事業以外の新規市場への表面改質技術の適用拡大

2 高付加価値の製品・受託加工と技術サポートを世界のお客さまに

- 金属防錆処理以外の分野における研究開発の推進
- SDGsを意識した製品・技術の開発
- 高品質な製品・受託加工と技術サポートを提供するための品質管理および品質保証体制の強化

3 現場で働く人たちの安心・安全衛生確保

- 安全衛生環境活動のグループレベルでの推進
- 労働災害および交通事故ゼロへの取り組み
- 危険有害業務の削減や作業環境改善への継続的な取り組み

4 多様な価値観を尊重し“力”に変えられる企業文化の醸成

- 女性・障がい者・外国人・中途・シニア等の採用促進
- 女性管理職比率の向上
- 多様な人材が活躍できる働き方、職場環境の整備

→ 取り組みは、P56～58をご参照ください。

5 持続可能な社会の実現に向けた責任ある対応

- 製品含有化学物質管理の徹底
- グリーン調達方針のサプライヤー100%遵守、エネルギー原単位削減への継続的な取り組み
- 資材購入と事業継続計画（BCP）による安定供給への取り組み推進

→ 取り組みは、P60をご参照ください。

6 誠実な企業であり続けるための継続的な取り組み

- グループガバナンス強化に向けた各社重要規程等の標準化
- コンプライアンスに係る教育と啓発活動へのグループ全体での継続的な取り組み
- すべてのステークホルダーとの緊密な関係の構築と協働

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）達成に貢献